

令和 2年度 行政評価事業別シート

| | | | | | | | |
|--|---|---|------------------------------------|--|--|------------|------|
| | 実計対象 <input checked="" type="checkbox"/> | 評価対象 <input checked="" type="checkbox"/> | 新規 <input type="checkbox"/> | 完了事業 <input type="checkbox"/> | ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/> | 担当者 | 堀内理恵 |
| | 全体計画 | | | 経費区分 | 実施計画事業費 | 内線 | 3248 |
| 事務事業名 | 4122 公共交通対策事業 | | | | | | |
| 所 属 | 120500 市民環境部・市民課 | | | | | | |
| 施 策 | 06033500 公共交通の確保 | | | | | | |
| 予算科目 | 会計 | 01 一般会計 | | | | | |
| | 科目 | 020111 総務費・総務管理費・交通防犯費 | | | | | |
| | 事業 | 020000 公共交通対策事業 | | | | | |
| 事業目的 | | | | 事業概要・効果 | | | |
| 市内の公共交通を確保するため、 ①須坂市地域公共交通会議が運営する「すざか市民バス」・「すざか乗合タクシー」の運行等を支援する。 ②屋代線代替バス運行等事業を支援する。 ③長野電鉄が実施する施設整備事業を支援する。 | | | | ①須坂市地域公共交通会議がすざか市民バス・すざか乗合タクシーを運営することで市内の公共交通が確保され、地域の活性化が図れる。 ②沿線3市が支援することで、屋代線代替バス運行が維持できる。 ③長野電鉄の沿線自治体が支援することで、電鉄の安全性が向上し、沿線地域の活性化が図れる。 | | | |

PLAN-DO

年度実績及び予定

| 平成27年度 実績 | 平成28年度 実績 |
|---|--|
| すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 107,654人 | すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 114,553人 |
| 平成29年度 実績 | 平成30年度 実績 |
| すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 108,584人 | すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 103,095人 |
| 平成31年度 実績 | 令和 2年度 予定 |
| すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 97,210人 | すざか市民バス、乗合タクシーの運行 屋代線代替バス運行事業補助金 長野電鉄の安全設備整備事業へ補助 バスICカードくるるを乗合タクシーへ導入 免許証自主返納者へバスICカードを1枚贈呈 |

| | | | | | |
|-----------|--|--------|--------|--------|--------|
| 指標名 | すざか市民バス利用者数 | | | | |
| 算式 | 毎月の運賃収入、回数券・定期券の売上から長電バス(株)が算出 | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和 2年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | 94,364 | |
| 指標選定の理由 | アンケートを実施、利用促進を図り利用者数を増加 ICカード「くるる」の導入による利便性が向上し利用者を増加 | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | すざか市民バス、すざか乗合タクシー合計利用者について平成26年度実績値を維持する | | | | |
| 指標名 | すざか乗合タクシー利用者数 | | | | |
| 算式 | 実数 | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和 2年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | 2,846 | |
| 指標選定の理由 | 利便性を向上させ利用者数を増加 | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | すざか市民バス、すざか乗合タクシー合計利用者について平成26年度実績値を維持する | | | | |
| 指標名 | | | | | |
| 算式 | | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和 2年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| 指標選定の理由 | | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | | | | | |

事業費

(単位：千円)

| | | 平成31年度 決 算 | 令和 2年度 予 算 |
|------------|---------|---------------|---------------|
| 事業費 | | 72,036 | 110,618 |
| 特定 財源 | 国庫支出金 | 0 | 0 |
| | 都道府県支出金 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 17,000 |
| 一般財源 | | 72,036 | 93,618 |
| 人員数 (人) | 正規職員 | 0.9 | 1.5 |
| | 嘱託職員 | 0.0 | 0.1 |
| | 臨時職員 | 0.6 | 0.3 |
| 人員 コスト | 正規職員 | 6,538.5 | 10,897.5 |
| | 嘱託職員 | 0.0 | 282.9 |
| | 臨時職員 | 778.8 | 389.4 |
| | 計 | 7,317.3 | 11,569.8 |
| 市民一人当たりの経費 | | 1.5 | 2.3 |
| 総額 | | 79,353.3 | 122,187.8 |

(単位：千円)

| 平成31年度決算 事業費の内訳 | | |
|-----------------|--------|--|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 8節 報償費 | 115 | 公共交通会議 委員・アドバイザー謝礼115 |
| 11節 需用費 | 19 | 事務用品15 |
| 13節 委託費 | 0 | |
| 15節 工事請負費 | 0 | |
| 19節 負担金補助及び交付金 | 71,114 | 須坂市地域公共交通会議への負担金49,144 屋代線代替バス8,950、長野電鉄への補助金13,000 |
| その他 | 788 | 臨時職員賃金・社会保険料709、旅費・郵便料79 |

(単位：千円)

| 令和 2年度当初予算 事業費の内訳 | | |
|-------------------|---------|--|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 7節 報償費 | 746 | 公共交通会議 委員・アドバイザー謝礼246、運転免許自主返納促進事業500 |
| 10節 需用費 | 25 | 会議用お茶6 |
| 12節 委託費 | 0 | |
| 14節 工事請負費 | 0 | |
| 18節 負担金補助及び交付金 | 108,620 | 須坂市地域公共交通会議への負担金80,000 屋代線代替バス7,600、長野電鉄への補助金21,000 |
| その他 | 1,227 | 臨時職員賃金・保険料1,063、旅費144、郵便料20 |

CHECK

| 個別評価 | | |
|--------|--|-------|
| 項目 | 評価観点 | 評価内容 |
| 必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか | 必要不可欠 |
| 評価コメント | 公共交通以外の交通手段を持たない住民の移動手段の確保は重要である。 | |
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか | 有効 |
| 評価コメント | 年3回の地域公共交通会議において、バスやタクシーの利用者が増加するよう日々検討を行っている。 | |
| 効率性 | <ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか | 変わらない |
| 評価コメント | 地域公共交通会議にて、地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用し、運行を行っている。 | |

振り返り（決算年度の取組み課題）

交通手段を持たない、学生や高齢者のためにみんなが意識して公共交通を利用していかなければ、将来にわたって維持できないことを、周知していかなければならない。

ACTION

1次評価

2次評価

| | | | |
|---|------------|---|------------|
| 次年度以降の方向性 | 抜本的見直し（拡大） | 次年度以降の方向性 | 抜本的見直し（拡大） |
| 総合評価コメント | | 2次評価コメント | |
| <p>ICカードの利用拡大を図るなど公共交通の利用促進を推進した。今後は、IC周辺開発等まちづくり事業とも連携し、戦略的に、また、より利用しやすい移動手段等の構築を進める必要がある。</p> | | <p>利用者の減少（災害・コロナウィルス等）がある中で厳しい状況が続いている。しかし、地域の足として公共交通は確保・維持していかなければならない。現状をしっかりと認識するうえで、中長期的な展望に立って考える必要がある。</p> | |

外部評価

| | |
|-----------|--|
| 次年度以降の方向性 | |
| 外部評価コメント | |
| | |